

第2学年1組 学級活動 学習指導案

令和2年



1 題材名 「何でも食べて元気いっぱい」

(内容(2)の工 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成)

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 題材について

本題材は、学習指導要領「特別活動」の第1節学級活動の2内容(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」に関することの中の(工)「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」をめざすものである。小学生は基本的な食習慣が形成されていく重要な時期である。そこで、食べ物には赤・黄・緑の3つの働きがあることを知り、それらをバランスよく食べることが健康な体づくりにつながることに気付き、好き嫌いをせず食べようとする意欲や態度を育て、生活の中での実践に結びつけられるようになってほしいと考える。また、本題材は、第3学年の保健で学習する「健康に過ごすために大切なこと」第4学年の保健で学習する「体をよりよく発育・発達させること」第5学年の家庭科で学習する「5大栄養素」につながる学習でもある。

(3) 指導について

本題材において育成を目指す資質・能力は、望ましい食習慣の形成を図ることの大切さや、健康によい食事の取り方などについて考え、改善を図って望ましい食習慣を形成するために判断し行動することができるようにすることである。そのため、児童が主体的に望ましい食習慣や食生活を実現しようとする態度を養うことができるよう、食に関する興味・関心を高め、健康な体づくりのための知識を積み上げていくようにする。

事前の活動では、食に関するアンケートを通し、あらかじめ児童がこれまでの食べ物の好き嫌いや給食の食べ方などについて考えることができるようにする。また、給食の残食を写真で記録しておき、アンケートと関連付けて掲示できるようにする。

導入では、給食の残食の記録や給食アンケートの結果を提示することで、問題点を明らかにし、みんなで解決していこうという意欲を高め、児童一人一人に課題意識をもたせる。(つかむ)

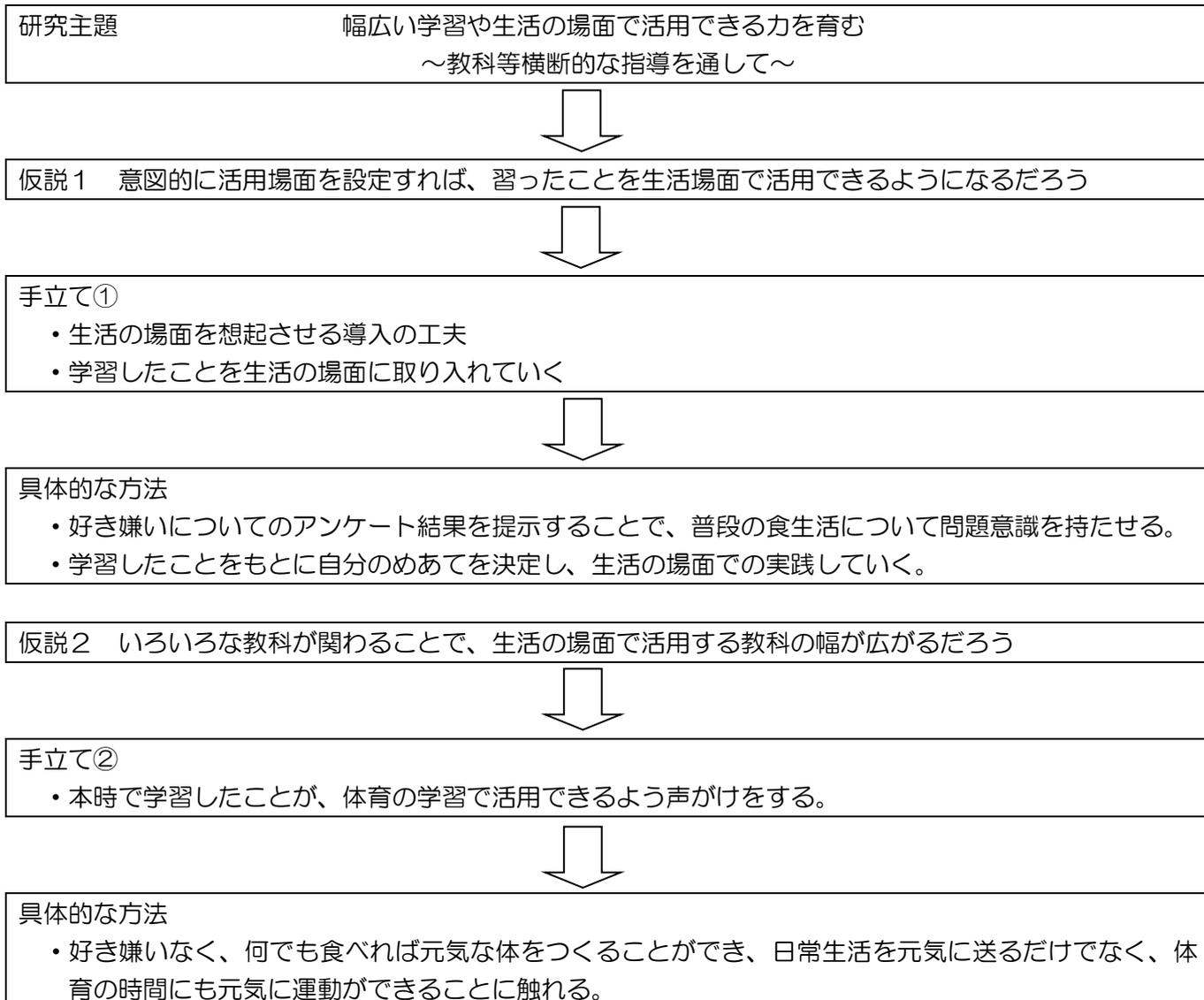
展開では、まず養護教諭と連携し、自分の体の健康と食べ物の3つの働き①血や肉をつくるもの(赤)②熱や力になるもの(黄)③体の調子をととのえるもの(緑)との関係について知り、給食にはこの3つの働きの食材がすべて使われていることに気付くようにする。養護教諭による専門的なアドバイスに

よって児童への定着を図るとともに、担任と分担して机間巡視等を行うことで、児童へ確実な支援ができるようにする。そして、偏った食生活を続けることによって引き起こされる問題点を考えていく。(さぐる)次に、グループの中で考えを伝え合い、思考ツールを活用しながら整理・分析していく。これまでの学習で児童は、5種類の思考ツールを活用している。本時においては偏った食生活を続けることによって引き起こされる問題点をもとに、その解決策をグループで考えられる思考ツールを提示し、整理・分析していく。(みつける)

終末では、グループで話し合ったことを参考にして、自分のめあてや実践方法を決める。「つかむ」「さぐる」「みつける」「きめる」の一連の学習を通し、自分の食生活を見直し、目標を決定し、実践する中で、望ましい食習慣が形成され、健康によい食事のとり方ができるようにしていく。

事後の活動としては、ワークシートに個々のめあてと実践の記録を書くようにする。食を取り巻く社会環境の変化により、栄養摂取の偏りや欠食といった食習慣の乱れ等に起因する肥満などの生活習慣病、食物アレルギー等の問題が指摘される現在、家庭との連携が今後さらに重要になる。そのため、保護者にも取り組みを知らせ、協力を依頼することにより、継続して実践できるようにしたい。

3 研究主題との関わり



4 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
自己の身の回りの諸課題の改善 に向けて取り組むことの意義を理 解し、よりよい生活を送るための知 識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、 解決方法などについて話し合い、自 分に合ったよりよい解決方法を意 思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするため に見通しをもったり振り返ったり しながら、進んで課題解決に取り組 み、他者と仲よくしてよりよい人間 関係を形成しようとしている。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・アンケートの記入をする。	・食べ物の好き嫌いや、給食の食べ方 について考えるように事前に知ら せておく。 ・給食の残食を記録する。	・アンケートに記入し、これまで の食べ物の好き嫌いや給食の食 べ方になどについて考えること ができる。 【態度】【アンケート】

6 本時の学習指導ねらい

(1) 本時のねらい

- ・自分の体の健康と食べ物の3つの働きとの関わりについて理解することができる。

【知識及び技能】

- ・今までの食事を振り返り、好き嫌いせずにバランスよく食べることの大切さについて考えることのできる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の展開

	学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ◎評価	
			☆教科横断	★生活の場面
			T1 学級担任	T2 養護教諭
導入 (つかむ)	1 アンケートの結果と給食の 残食の写真を見て、クラスの中 で好き嫌いが多いことを知る。 2 アンケート結果、見て気付い たことを話し合う。		○学級の共通の問題として捉えられるよう に、統計資料を活用し、話し合う。 ○児童から出された意見をもとに、問題点を 明らかにし、みんなで解決していこうとい う意欲を高める。	
展開 (さぐる)	3 本時の題材を知る。 何でも食べて 元気いっぱい		○アンケートの結果や気付いたことの発表を 踏まえ、教師が本時の題材を提示し、解決 に向けての意欲化を図る。	
	4 食べ物には3つのはたらき があることを知る。	○3つのはたらき ・血や肉をつくる もの(赤) ・熱や力になるも の(黄) ・体の調子をとと のえるもの(緑)	○黒板に赤、黄、緑に 属する給食の食材 の写真を貼る。	○3つのはたらき について説明する。 ○給食の時に使われ ている食材が全て 3つのはたらきに 分けられることに ふれる。

<p>展開</p> <p>さぐる</p> <p>みつける</p>	<p>5 嫌いな食べ物を食べなかったらどうなるか考える。</p> <p>6 自分の考えを交流し、元気いっぱいの体をつくるためにはどうしたらよいかグループで話し合う。</p> <p>7 全体で交流する。</p>	<p>○好き嫌いなく食べることの大切さ</p> <p>○思考ツールの使い方</p>	<p>◎自分の体の健康と食べ物の赤・黄・緑の3つの働きとの関わりについて理解している。</p> <p>【知識・技能】【発言・学習カード】</p> <p>○「好きな物ばかり食べていたらどうなるか。」と補助発問をし、考えを深められるようにする</p> <p>○付箋に書き、交流ができるようにする。</p> <p>○書くことが難しい児童にはヒントを出し、1つでも書けるようにする。</p> <p>○担任と分担して各班の机間巡視を行い、支援する。</p> <p>○思考ツールを使い、グループで意見をまとめられるようにする。</p> <p>○他の班がまとめた意見を確認し、自分たちがまとめた意見と比べられるようにする。</p> <p>☆好き嫌いなく、何でも食べれば元気な体をつくることができ、元気に運動ができることに触れる。</p>
<p>終末</p> <p>決める</p>	<p>8 話し合ったことを参考にし、自分のめあてや実践方法を決める。</p> <p>9 実践への意欲化を図る。</p>	<p>○めあての決定</p>	<p>★自分なりのめあてを具体的に決められるように支援する。</p> <p>○普段から好き嫌いがない児童には、三角食べやよく噛んで食べるなどのステップアップしためあてを考えさせるようにする。</p> <p>◎自分の今までの食事を振り返り、好き嫌いせずにバランスよく食べることの大切さについて考えている。</p> <p>【思考・判断・表現】 【発言・学習カード】</p> <p>○1週間実践し、自己評価できるようにする。</p>

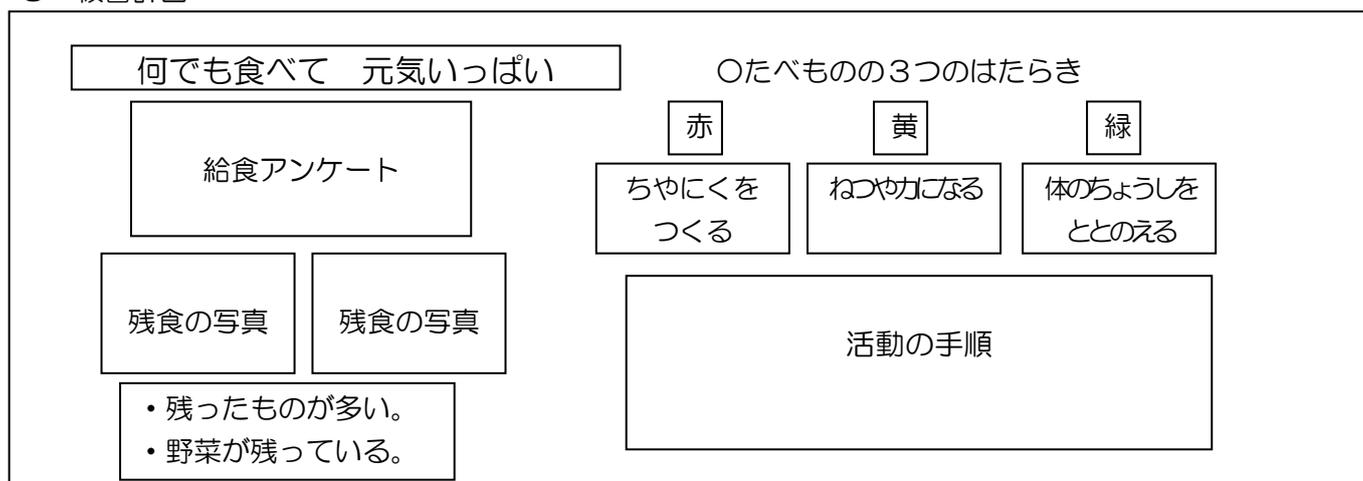
好き嫌いなく、何でも食べると、元気な体を作ることができ、体育の授業で元気に運動することができますね。

今日の学習をもとに、これからどのように生活していきたいか考えましょう。

7 事後の活動

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 自分が決めためあてに向けて1週間程度、実践活動に取り組む。 取組について振り返る。 家庭にも取組の様子を伝え、給食だけの取組で終わらないように連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なものに対して、一口でも食べることができたら大いに認め、児童同士ではげまし認め合えるようにする。 達成できなかったことを振り返り、めあてを修正できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> どのように生活に生かしていきたいかを考えて立てた具体的なめあてや実践方法に、進んで取り組もうとしている。 <p>【態度】【実践カード・観察】</p>

8 板書計画



エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

給食の時間を中心としながら、健康によい食事のとり方など、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること。

この内容は、自分の食生活を見直し、自ら改善して、生涯にわたって望ましい食習慣が形成され、食事を通してよりよい人間関係や社交性が育まれるようになるものである。楽しく食事をする事、健康によい食事のとり方、給食時の清潔、食事環境の整備などの改善について身近な事例を通して考え、自己の課題に気付き、具体的な目標を立てて取り組むなどの活動が中心となる。

この内容において育成を目指す資質・能力については、例えば、望ましい食習慣の形成を図ることの大切さや、食事を通して人間関係をよりよくすることのよさや意義などを理解すること、給食の時間の楽しい食事の在り方や健康によい食事のとり方などについて考え、改善を図って望ましい食習慣を形成するために判断し行動することができるようにすることが考えられる。また、そうした過程を通して、主体的に望ましい食習慣や食生活を実現しようとする態度を養うことなどが考えられる。食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成は、食に関する資質・能力等を、児童が発達の段階に応じて総合的に身に付けることができるように学校教育全体で指導することである。したがって、学校の教育計画等と関連付けながら食に関する指導の全体計画を作成し、給食の時間を中心としながら、各教科等における食に関する指導を相互に関連付け、総合的かつ効果的な指導が行われるように留意する必要がある。

給食の時間は、楽しく食事をする事、健康によい食事のとり方、給食時の清潔、食事環境の整備などに関する指導により、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通してよりよい人間関係の形成を図る。そして、適切な給食時間を確保した上で、給食の準備から後片付けを通して、計画的・継続的に指導する必要がある。また、食を取り巻く社会環境の変化により、栄養摂取の偏りや欠食といった食習慣の乱れ等に起因する肥満などの生活習慣病、食物アレルギー等の問題が指摘される現在、家庭との連携が今後更に重要になる。心身の健康に関する内容にとどまらず、自然の恩恵への感謝、食文化、食料事情などについても各教科等との関連を図りつつ指導を行うことが重要である。

これらの指導に当たっては、栄養教諭の専門性を生かしつつ、学校栄養職員や養護教諭などの協力を得て指導に当たることも必要である。また、これらの学校給食に関する内容については、学級活動の授業時数には充てない給食の時間を中心に指導することになるが、学級活動の時間でも取り上げ、その指導の特質を踏

まえて計画的に指導する必要がある。その際、学校給食を教材として活用するなど多様な指導方法を工夫することが大切である

いろいろなものを食べるとどんなよいことがあるのでしょうか。

- ・体が大きくなる。
- ・病気になりにくい。
- ・お肉を食べると力が出る。

「食べるとどんないいことがあるのか」

・黄のグループの食べ物
米、パン、麺など（主に体を動かすエネルギーとなる）

・赤のグループの食べ物
肉、卵、魚、大豆製品、牛乳など（主に体をつくる）

・緑のグループの食べ物
野菜、果物、きのこなど
（主に体の調子を整える）

○子供達から嫌いなものとして挙げた食品カードを黒板から外していき、食べる食材が減っていく様子を視覚でとらえられるようにする。